

戦後80年 北海道に 渡った「被爆石」

を巡る物語～野 剣淵町在住 嶽次郎さんの平和への想い

昨年12月、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）のノーベル平和賞受賞の快挙と同じ頃、深川市役所前庭に原爆の悲惨さを伝える記念碑がお目見えした。記念碑は縦約1・5メートル、横約90センチ、そこに約80キロの「被爆石」と4つの「原爆瓦」が嵌め込まれている。旧

広島市役所の敷石として使われていたもので、広島市役所によると、こうした「被爆石」は国内（約90カ所）や海外（約10カ所）の団体や施設に寄贈されており、北海道では深川市のほか、北広島市、新得町、池田町で展示（別項参照）されているという。

深川市は1985（昭和60）年に「非核平和都市宣言」を行っており、記念碑の背景に標柱が立っている。毎年、広島に原爆が投下された8月6日に記念式典が開かれているが、40年目に当たる今年は記念碑が披露され、花束などが手向けられた。ノーベル平和賞と非核平和都市宣言40年――。偶然のタイミングとはいえ、寄贈者で

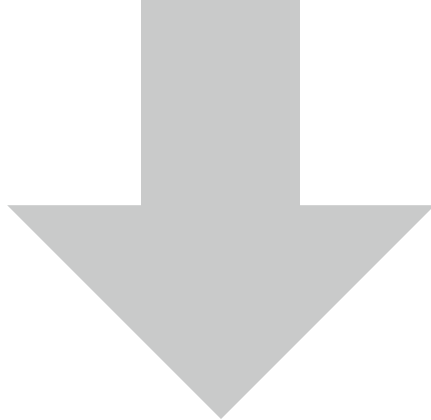
広島市長に宛てた手紙

戦後80年の今年は、さまざまなメディアやイベントなどを通して、改めて戦争と原爆の悲惨さがクローズアップされた。次世代への記憶の継承が重要視されるなか、長年にわたり平和の尊さを訴え続けているのが、剣淵町在住（深川市出身）の野嶽次郎さんだ。深川市役所の前庭には、野嶽さんが寄贈した原爆の「被爆石」が展示されている。この「被爆石」は、旧広島市役所で敷石として使用されていたもの。道内では4自治体で保管されている。1983（昭和58）年の広島訪問が人生の転機になったという野嶽さんに話をうかがった。

（フリーライター・内海達志）



記念碑と野嶽次郎さん



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)